

会社概要

社名	日本軽金属ホールディングス株式会社
英文社名	Nippon Light Metal Holdings Company, Ltd.
本店所在地	東京都港区新橋一丁目1番13号 アーバンネット内幸町ビル

主な拠点

日本

- アルミニウム線材株式会社 ●
- 株式会社エヌ・エル・エム・エカル ●
- 東洋アルミエコープロダクツ株式会社 ●
- 東洋アルミニウム株式会社 ●
- 株式会社東陽理化学研究所 ●
- 日軽エムシーアルミ株式会社 ●
- 日軽エンジニアリング株式会社 ●
- 日軽形材株式会社 ●
- 日軽金アクト株式会社 ●
- 日軽金ALMO株式会社 ●
- 日軽金加工開発ホールディングス株式会社 ●
- 日軽産業株式会社 ●
- 日軽情報システム株式会社 ●
- 日軽パネルシステム株式会社 ●
- 日軽物流株式会社 ●
- 日軽松尾株式会社 ●
- 日本軽金属株式会社 ●
- 日本フルハーフ株式会社 ●
- 日本電極株式会社 ●
- 理研軽金属工業株式会社 ●

海外

- 華日軽金(蘇州)精密配件有限公司 ●
- 湖南寧郷吉唯信金属粉体有限公司 ●
- 日軽商菱鋁業(昆山)有限公司 ●
- トーヤル・MMPインディア・プライベート・リミテッド ●
- ニッケイ・エムシーアルミニウム・タイランド・カンパニー・リミテッド ●
- ニッケイ・サイアム・アルミニウム・リミテッド ●
- フルハーフ・マハジャック・カンパニー・リミテッド ●
- トーヤルアメリカ・インク ●
- ニッケイ・エムシーアルミニウム・アメリカ・インク ●
- ニッポン・ライト・メタル・ジョージア・インク ●
- ニッポン・ライト・メタル・ノース・アメリカ・インク ●
- トーヤルヨーロッパ・S.A.S.U. ●

● アルミナ・化成品、地金事業 ● 板、押出製品事業 ● 加工製品、関連事業 ● 箔、粉末製品事業



NLM 日本軽金属ホールディングス株式会社

NLM 日本軽金属ホールディングス株式会社

<https://www.nikkeihinholdings.co.jp>



チームのチカラで、お客様 の価値を創造する企業へ。

日本軽金属グループには、豊かな可能性を持つアルミニウムの領域で、さまざまな得意分野を持つ会社・部門が集結しています。

そんな各社・各部門が連携したチームのチカラで、お客様や社会の課題を解決する「価値」を生み出します。アルミニウムを核としたビジネスの創出により、暮らしの向上と地球環境の保護に貢献していくことが、「チーム日軽金」の使命です。

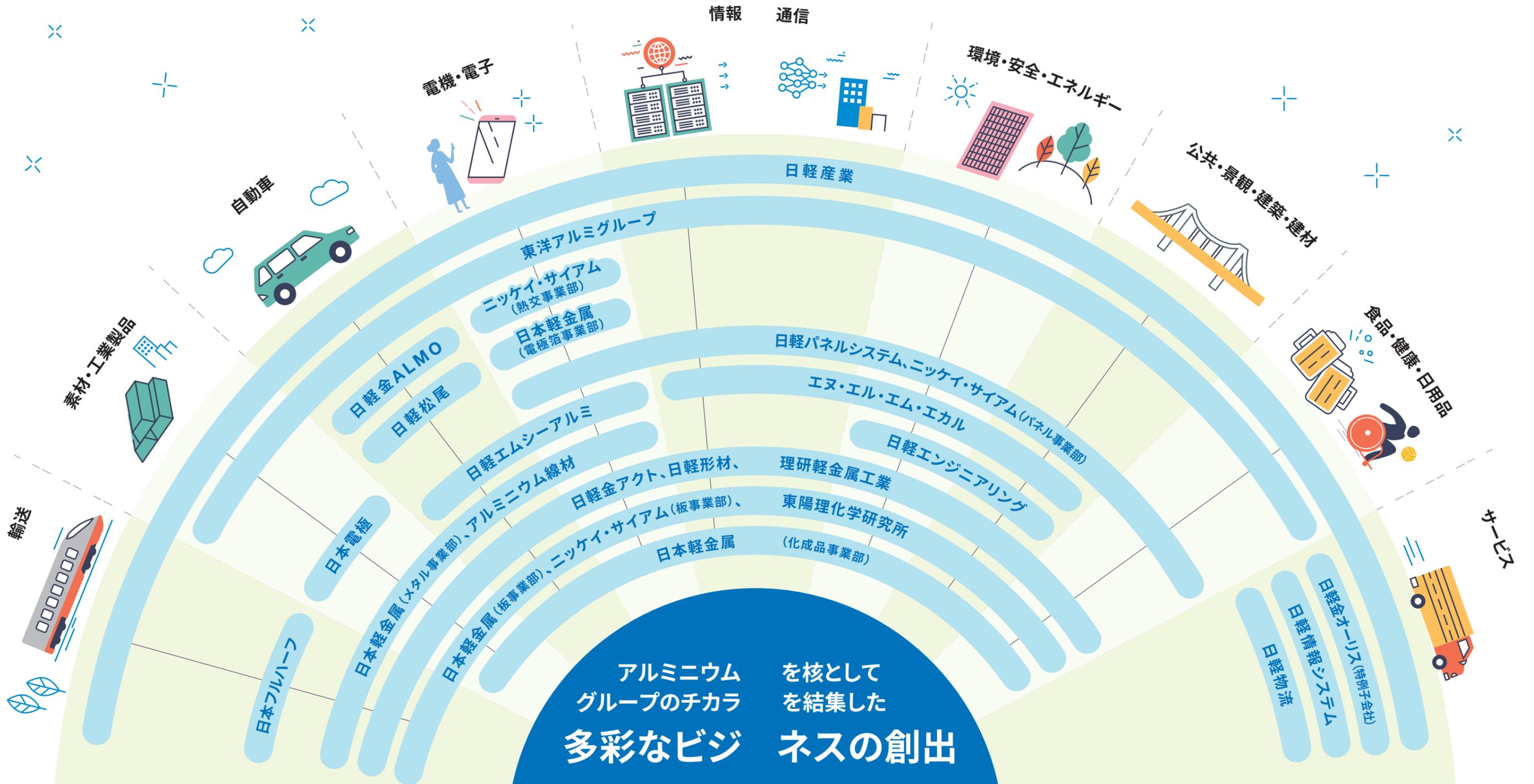
アルミニウムの可能性を引き出す、独自のイノベーション。

お客様や社会の課題に応えるために、アルミニウムの本来の価値を最大限に引き出し、日本軽金属グループが有するイノベーションを掛け合わせ、「チーム日軽金」だからこそ生み出すことができる価値を創造します。



研究開発拠点:
日本軽金属 グループ技術センター

<https://www.nikkeikin.co.jp/company/office/index.html>



SOLUTION 1 GLOBAL ENVIRONMENT



提供:JR東海(株)

日本軽金属グループ × 地球環境

持続可能な地球を運んでくる、
ひとつ進んだリサイクル。

アルミニウムのリサイクルで、 サステナブルな社会へ。

アルミニウムは、軽い、加工性が良い、重さあたりの強度が高いなど優れた特性を持っています。リサイクルが容易なことも、優れた特性のひとつ。アルミニウムは溶かせば何度でも再利用でき、リサイクル時に必要なエネルギーは新しく作る場合の3%で済みます。アルミニウムのリサイクルにより、地球温暖化につながるCO₂排出量を減らすことができるのです。日本軽金属グループは、アルミニウムのリサイクルを積極的に推進。サステナブルな社会の実現に貢献していきます。



お客様による加工例

for 自動車の駆動装置
独自開発のアルミニウム合金を使った
「耐摩耗性合金NH41」
▶ 日軽エムシーアルミ

新幹線から新幹線へ。カーボンニュートラルを 加速する、新幹線車両構体*の水平リサイクル。

いま、日本軽金属グループが取り組む先進のリサイクルは、日軽金アクトが、JR東海(株)などと共同で進める新幹線車両の構体材の水平リサイクル。これまで、廃車となった新幹線車両は不純物の多い鋳物用アルミニウムなどにリサイクルされ、新幹線車両の構体材としては使えませんでした。車両構体は新幹線のいわば骨格であり、強度や品質など信頼性が求められる部材ですが、日本軽金属グループのリサイクル技術、製造技術により、元の部材と同じ品質を実現。再び新幹線車両構体に水平リサイクルすることを可能にしました。この取り組みで、生産時のCO₂排出量は新幹線1編成あたり約50トン削減されます。

日本軽金属グループは、アルミニウムの水平リサイクルを他の商品にも広げていきます。「チーム日軽金」が持つチカラを結集し、カーボンニュートラルの取組みを加速します。

*鉄道車両の車体において、台枠・骨組・外板などで構成される、強度を担う部分。

▶ 新幹線の水平リサイクルの流れ (情報提供:JR東海(株))

新幹線の車両から解体分別されたアルミスクラップを、日軽エムシーアルミで溶解、日本軽金属浦原製造工場で鋳造し、日軽金アクト新潟工場で、再び新幹線車両の構体材に押出加工します。



(車両構体断面イメージ)



N700Sの車両構体(屋根)に使用

日軽金グループの重要課題(マテリアリティ)

持続可能な価値提供

- ▶ 強靱なインフラ整備、提供
- ▶ イノベーションによる未来づくり

従業員の幸せ

- ▶ 働きがいのある職場づくり
- ▶ ダイバーシティ&インクルージョン

責任ある調達・生産・供給

- ▶ 安全、安心な商品・サービスの提供
- ▶ 人権の保護、尊重



人と社会の垣根を跳びこえる、
軽くて強いものづくり。



日本軽金属グループは、 日本車いすラグビー連盟を支援しています。

日本軽金属グループは、従業員の誇りになるような会社を目指し、社会貢献活動の充実を目的に、2020年より(一社)日本車いすラグビー連盟とオフィシャルパートナー契約を締結。従業員によるボランティア活動や、車いすラグビーの勉強会、従業員や家族による試合観戦などを行っています。こうした活動の一環として取り組んでいるのが、車いすラグビー選手が乗る競技用車いす(通称:ラグ車)のハンドリムの開発です。ハンドリムとは、車輪の外側に固定された金属の輪で、選手が車輪を動かすときに回す、車いすの心臓部に当たるもの。車いすラグビーは、選手が乗った車いす同士がぶつかり合う競技であるため、ハンドリムがよく変形してしまいます。日本軽金属グループは、アルミニウムを活用して軽くて変形しにくいハンドリムを開発。初めての国産ハンドリムとして連盟に提供し、車いすラグビーの普及・振興に貢献しています。

国際大会でも活躍する、 新開発のハンドリム。

ハンドリムの製作を担当した日本軽金属グループの各社*は、ハンドリムを形成する筒の内側に板(リブ)を入れ、軽さを維持しながら強度を高め、ぶつかったときの変形を抑えることに成功しました。さらに、リブを入れた筒と、タイヤとの接続部分にあたる板とを一体で押出成形することで、低コストで材料ロスも抑えたハンドリムの製造を実現したのです。

新しいハンドリムを使用したラグ車は、耐久性に優れ、試合で存分にぶつかっても壊れにくいなど、コストや機動性の面で選手から高い評価を受け、2021年からは国際大会でも使用。日本代表チームの躍進に貢献しています。

また、日本軽金属グループでは2021年に、日本軽金属苫小牧製造所にある自社体育館「日軽アリーナ」を、パラスポーツをする皆様が使いやすいように改修。車いすバスケットボールなど、地域のパラスポーツの拠点として多くの方々に親しまれています。

日本軽金属グループは、アルミニウムの特性を活かしたものづくりをはじめ、さまざまな活動により、誰もがのびのびと活躍できる社会に貢献していきます。

*日軽メタル、日軽金アクト、日本軽金属

日本軽金属グループ × 暮らし

SOLUTION 2 SOCIETY AND LIFE



ハンドリム



日軽アリーナ



車いすラグビー用車いす(通称:ラグ車)

日軽金グループの重要課題(マテリアリティ)

地球環境保護

- ▶ 自社での温室効果ガス削減(スコープ1,2)
- ▶ サプライチェーンでの温室効果ガス削減(スコープ3)
- ▶ 気候変動への対応(TCFD)

持続可能な価値提供

- ▶ 低炭素商品・サービスの開発、提供
- ▶ 循環型経済・社会の推進
- ▶ イノベーションによる未来づくり

責任ある調達・生産・供給

- ▶ 安全、安心な商品・サービスの提供



日本軽金属グループは、日本車いすラグビー連盟のオフィシャルパートナーです。

THERMAL MANAGEMENT

日本軽金属グループ × 熱対策

省エネから温暖化の抑制まで、
日本軽金属グループは地球を救う。



日軽金グループの重要課題(マテリアリティ)

地球環境保護

- ▶ 自社での温室効果ガス削減(スコープ1、2)
- ▶ サプライチェーンでの温室効果ガス削減(スコープ3)
- ▶ 気候変動への対応(TCFD)

持続可能な価値提供

- ▶ 低炭素商品・サービスの開発、提供
- ▶ 循環型経済・社会の推進
- ▶ イノベーションによる未来づくり

責任ある調達・生産・供給

- ▶ 安全、安心な商品・サービスの提供

熱を快適に、
安全にコントロールする、
日本軽金属グループの商品群。



日本軽金属グループの熱対策ソリューションが、 電動車の時代をひらきます。

アルミニウムには熱伝導性が高いという特性があり、さまざまな分野の商品の熱対策に活用されています。

特に、ハイブリッド車や電気自動車などいわゆる電動車は、「冷却」が要です。パワーコントロールユニット(PCU)、パワー半導体、リチウムイオンバッテリーなどは、電動車の電力を適切にコントロールするための心臓部で、電気を変換するたくさんの部品が搭載されていますが、常に交換しきれないエネルギーが熱として発生します。この熱を取り除くことによって電動車の心臓部を守るのが、アルミニウムによる放熱プレート。日本軽金属グループは、自動車メーカーや部品メーカーのニーズに応えるため、グループ各社・各部門が情報や技術を持ち寄り、お客様に最適なソリューションを提案する「チーム日軽金」の体制で、これからの自動車の主流となる電動車を支えています。

また、日本軽金属化成事業部が扱う酸化アルミニウム(アルミナ)や水酸化アルミニウムも、優れた熱伝導性を備えます。独自で開発した粒子の大きさや形、粒子表面処理技術が評価され、電動車に搭載される樹脂の放熱フィラーとして使われています。

持続可能な社会の実現に貢献する、 熱対策のイノベーション。

日本軽金属グループは、こうした熱対策をさらに向上させるための技術開発も進めています。例えば「アルミ+1」の技術。これは、電子機器などの高機能化に対応し、アルミニウムに銅や樹脂など他の素材を接合して組み合わせるもので、熱伝導性と軽さ、強さを兼ね備えたマルチマテリアルとして、単一素材だけでは解決できない多様な課題に対応します。

アルミニウムと化成品による熱対策、その派生技術は、自動車や電子部品などを熱から守るだけでなく、熱利用の効率化による省エネや、電動車の普及による脱炭素、そして本格的な水素社会の到来へとつながります。日本軽金属グループは、持続可能な社会の実現に欠かせない熱対策を、さらに進化させていきます。



for **接合技術**
金属と樹脂を
一体化する接合技術
「PAL-fit®」

- ▶ 日本軽金属
- ▶ 日軽金アクト
- ▶ 日軽金ALMO



<https://www.nikkeikin.co.jp/products/board/index.html>

断熱 熱を通さない

▶ パネルなど

for **食品工場、冷凍・冷蔵倉庫、
クリーンルーム**
ノンフロン断熱不燃パネル
「ジェネスタ不燃」

▶ 日軽パネルシステム



<https://www.nikkeipanel.co.jp/products/special/genesta/index.html>



for **貨物輸送
温度管理車**

▶ 日本フルハーフ



<https://www.fruehauf.co.jp/>



冷却 冷やす

▶ 電動車、電子機器類など

for **パワーコントロールユニット
(PCU)**

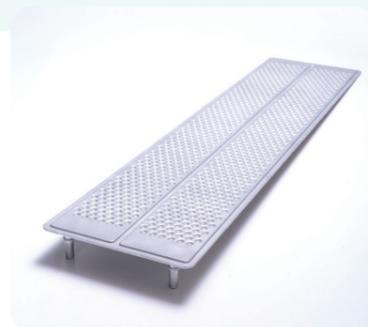
ベースプレート
(高品質ダイカスト品と高放熱フィンを
FSW接合したPCU向け放熱プレート)

- ▶ 日軽金ALMO
- ▶ 日軽松尾



for **車載バッテリー
バッテリー
冷却プレート**

▶ 日軽金ALMO



難燃 熱や炎から守る

▶ 電子材料、各種プラスチック材料、壁紙・カーテン・じゅうたんなどの不燃材



for **難燃材**
水酸化アルミニウム

▶ 日本軽金属 化成事業部

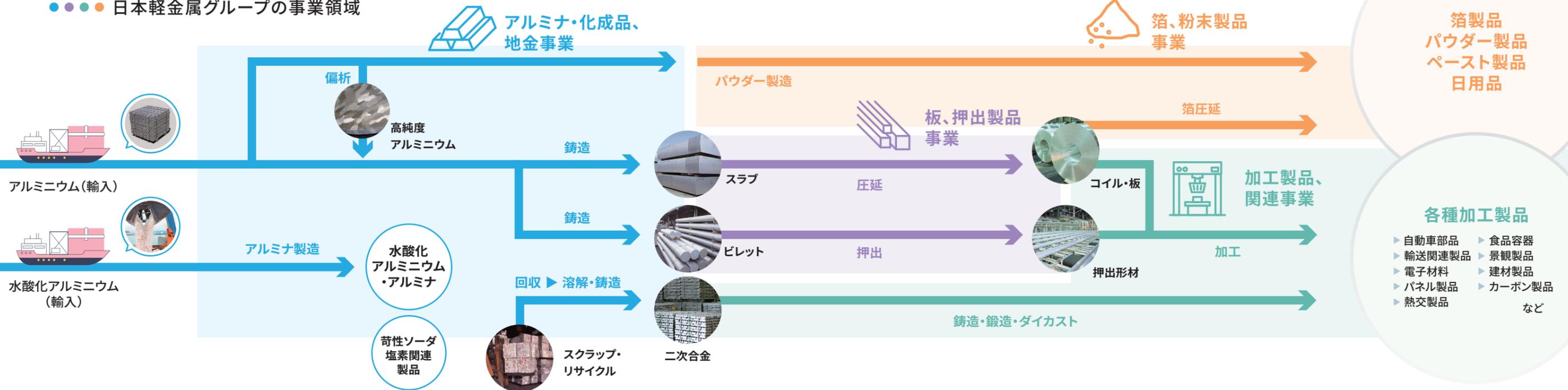


<https://www.nikkeikin.co.jp/products/chemical/index.html>

Market & Product

●●●● 日本軽金属グループの事業領域

素材開発から商品提供までのワンストップソリューション。
暮らしと産業の幅広いシーンに、日本軽金属グループの
技術と商品があります。



箔製品
パウダー製品
ペースト製品
日用品

各種加工製品

- ▶自動車部品
- ▶食品容器
- ▶輸送関連製品
- ▶景観製品
- ▶電子材料
- ▶建材製品
- ▶パネル製品
- ▶カーボン製品
- ▶熱交製品
- ▶など

<p>電機・電子、情報通信</p> <p>for 電子機器 光輝性アルマイト ダイキャスト合金</p> <p>▶日軽エムシーアルミ</p>	<p>環境・安全・エネルギー</p> <p>for 原子力発電所 使用済燃料 収納容器用板材 「MAXUS®」</p> <p>▶日軽エムシーアルミ 提供: NAC International Inc.</p>	<p>公共・景観・建築・建材</p> <p>for 建築外装向け カラーチタン材料 デザインチタン 「TranTixxii®」 (トランティクシー)®</p> <p>▶東陽理化学研究所 九州国立博物館のチタン屋根 提供: 日本製鉄(株)</p>	<p>自動車</p> <p>for ワイヤー・ハーネス 自動車用アルミ電線</p> <p>▶日本軽金属 メタル事業部 ▶アルミニウム線材</p>	<p>食品・健康・工業製品</p> <p>for 各種産業 工業用酸化剤</p> <p>▶日本軽金属 化成品事業部</p>	<p>輸送</p> <p>for 鉄道 新幹線内装材 (N700Sグリーン車 中央天井)</p> <p>▶日本軽金属 板事業部 提供: JR東海(株)</p>
<p>for 半導体製造装置 半導体製造装置用 厚板</p> <p>▶日本軽金属 板事業部</p>	<p>for 制震 木造住宅用 アルミ制震ブレース 「ブレースリー®」</p> <p>▶日軽エムシーアルミ</p>	<p>for 建物(内外装) 内外装ルーバー</p> <p>▶日軽エムシーアルミ</p>	<p>for ブレーキ 対向型 ブレーキキャリパー</p> <p>▶日軽エムシーアルミ</p>	<p>for 食品 アルミ樽 ディスペンサー洗浄樽</p> <p>▶日本軽金属 容器部</p>	<p>for 貨物輸送 ウィンググループ</p> <p>▶日本フルーフ</p>
<p>for エレクトロニクス アルミ電解 コンデンサ用 化成箔</p> <p>▶日本軽金属 電極箔事業部</p>	<p>for 防災設備 防災倉庫</p> <p>▶エヌ・エル・エム・エカル</p>	<p>for 公共空間形成 駅前複合施設</p> <p>▶日軽エムシーアルミ</p>	<p>for サスペンション サスペンション部品</p> <p>▶日軽エムシーアルミ</p>	<p>for 食品・医薬品・工業材 撥水包装材料 「トーマルロータス®」</p> <p>▶東洋アルミニウム</p>	
<p>for 半導体工場 クリーンルーム用 ノンフロン断熱パネル</p> <p>▶日軽エムシーアルミ</p>	<p>for 水害対策 陸間・水門</p> <p>▶日軽エムシーアルミ</p>	<p>for 建物(天井) 耐震天井 「NEGRES®(ネグレス)」 シリーズ</p> <p>▶日軽エムシーアルミ</p>			

「チーム日軽金」で「循環型価値創造のグローバル・リーディング・カンパニー」へ



代表取締役社長

朝来野 修一

日本軽金属グループは、創業以来アルミニウムの原料から加工製品に至るまで、幅広い商品を扱ってきたアルミニウム総合メーカーです。

私たちはこれまで、グループが持つ知見・ノウハウ・独自の技術力で、アルミニウムを核とした多様な商品をお届けしつつ、「チーム日軽金」の総合力を活かし、社会と共に成長してきました。

当社グループは、これまで培った経験と実績を十二分に発揮し、資源循環や脱炭素を軸とした持続可能な社会の実現に向けて「循環型価値創造のグローバル・リーディング・カンパニー」へと力強く進化してまいります。

私たちは、誠実で公正な事業を展開し、社会が真に求める価値を確実に提供しながら、社会課題の解決と当社グループの持続的な成長の両方を実現する企業体として、人々の暮らしの向上と地球環境の保護に貢献してまいります。

経営理念

アルミニウムを核としたビジネスの創出を続けることによって、人々の暮らしの向上と地球環境の保護に貢献していく

基本方針

- ▶ 健康で安全な職場をつくり、「ゼロ災害」を達成する
- ▶ グループ内外との連携を深化させ、お客様へ多様な価値を継続的に提供する
- ▶ 持続可能な社会を実現するため、カーボンニュートラルに積極的に取り組む
- ▶ 人権を尊重し、倫理を重んじて、誠実で公正な事業を行う
- ▶ 多様な価値観を尊重し、長期的かつグローバルな視点で人財を育成する

素材メーカーから価値創造企業へ。
日本軽金属グループは時代とともに進化します。

日本軽金属グループの沿革 ▶

<https://www.nikkeihinholdings.co.jp/company/nim-enkaku.html>

- 1939年** 東京電燈(株)と古河電気工業(株)の提携によりアルミニウム製錬会社として日本軽金属(株)設立
- 1970年代後半** オイルショックを機に加工事業への転換が加速
- 2012年** 日本軽金属ホールディングス(株)設立
- 2014年** 日本で唯一だったアルミニウム電解事業を終了、事業分野のすそ野を広げる展開へ



グループ本社 新橋オフィス

そして現在 アルミニウムを核とした価値創造で人々の暮らしや地球環境に貢献する企業グループへ

日本軽金属グループのサステナビリティ ▶

<https://www.nikkeihinholdings.co.jp/sustainability/index.html>

日軽金グループの重要課題(マテリアリティ)

地球環境保護

- ▶ 自社での温室効果ガス削減(スコープ1、2)
- ▶ サプライチェーンでの温室効果ガス削減(スコープ3)
- ▶ 気候変動への対応(TCFD)
- ▶ 水ストレスへの対応
- ▶ 環境汚染の防止

持続可能な価値提供

- ▶ 再生可能エネルギーの利用拡大への取組み
- ▶ 低炭素商品・サービスの開発、提供
- ▶ 循環型経済・社会の推進
- ▶ 強靱なインフラ整備、提供
- ▶ 食糧の安定供給への貢献
- ▶ イノベーションによる未来づくり

従業員の幸せ

- ▶ 労働の安全衛生
- ▶ 働きがいのある職場づくり
- ▶ ダイバーシティ&インクルージョン
- ▶ 人財の確保、育成

責任ある調達・生産・供給

- ▶ 安全、安心な商品・サービスの提供
- ▶ 人権の保護、尊重
- ▶ 安定したサプライチェーンの構築
- ▶ 変化に柔軟で強靱なバリューチェーン

企業倫理・企業統治

- ▶ ガバナンスの強化
- ▶ コンプライアンス体制の強化